

講義年月日
 講演者
 テーマ
 講義内容

2004年6月7日(月)
 加藤好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
 大学図書館におけるアウトソーシングの意味:(慶應義塾図書館の場合)

1. 大学図書館におけるアウトソーシングの意味:(慶應義塾図書館の場合)
 - 配付資料及びパワーポイント説明により14:51~16:38講義。
 - (株)キャリアパワー(人材派遣会社 京都)職員研修において講演。
 - 既に人材派遣会社による図書館業務は年々発展拡大の傾向にある。
 - 図書館に対する開館時間延長等の諸要請に対して、費用対効果を総合的に検討するとアウトソーシング導入による運営が必要になっている。
2. 三田メディアセンター7つの戦略
 - (1) 相互協力について:
 - 1982年 慶應義塾大学と早稲田大学の間相互協力を開始する。
 - 早稲田蔵書500万冊:慶應蔵書450万冊を相互に利用活用する。
 - 1982年 文、経、法、商各学部図書を集中管理。
 - 2000年6月 全ての大学に図書貸出、謝絶率60%
 - 2002年 学部図書の貸出了承
 - 2002年6月 RLG(リサーチ・ライブラリー・グループ)加盟(アジア初)
 - 2004年6月 慶應義塾大学と一橋大学の間相互協力を開始する。
 - (2) 書庫問題について:
 - 1994年 山中資料センター
 - 1999年 白楽サテライト・ライブラリー
 - 2004年 Law School
- 2005年 新校舎建設 リサーチ・ライブラリーと学習図書館機能の見直。
 - (3) 蔵書構築について:
 - 慶應義塾図書館選書基準2003年版作成internet環境下のサービス展開。
 - 私立大学「教育研究情報共同購入機構」
 - (4) 電子図書館について:
 - DRM改組
 - ゲーテンベルグ聖書保存のためのデジタル化
 - 有償制度導入(DB解放:1アクセス100円、貴重書類有料出品)
 - (5) 専門職育成について:
 - 慶應義塾の方針
 - 図書館員その他、職員職務領域の専門職化、少数精鋭。
 - 費用対効果 課長8名減 8000万円:アウトソーシングにより
 - カウンター巡り充実5000万円投入
 - (6) 研修計画(海外研修)について:
 - 2002年9月 慶應義塾大学とトロント大学の間図書館員交換協定。
 - UCSD(6名派遣)、RLGとの人事交流、EUへの派遣、PRDLAへの参加、
 - OCLC日本代表、各種大会等へ随時派遣
 - (7) 研修計画(国内研修)について:
 - 2004年 情報資源管理研究科修士課程(夜間開講)、(SFC)等大学院派遣。ア
 - ーキピスト養成:石炭関連会議録購入。
 - 2003年9月 国際鉱山会議 発表 派遣。
 - 書誌学精通の図書館員養成。デジタル・ライブラリアン養成。
 - 外部校職員等の受入研修。Law School要員の研修。研究会・研修会開催。
3. 専門職としての8機能
 - (1) 財務戦略等(2) 選書、保存(3) 目録、保管(4) システム管理
 - (5) デジタル化対応力(6) Z39.50等、書誌精通(7) 情報リテラシー教育、
 - デジタルレファレンス(8) STM(Science, Technology, Medicine)対応
4. アウトソーシングとは
 - (1) 業務の標準化により業務効率を向上。
 - (2) 業務研修による業務対応力強化と発展拡大。
 - 福澤諭吉先生:「門閥は親の敵で御座る」
5. アウトソーシングによって慶應で何が実現したか。
 - (1) 開館時間延長、夜間、土曜、日曜。
 - (2) カウンターサービス充実、貸出増加、相互協力充実。
 - (3) 修士論文の複写許諾
6. おわりに
 - ダーウィン:休暇は有給 仕事は?・世界を見つめ足元を固めよ。